

第2章 実践

1 モデル校の紹介


<裾野市>

裾野市は静岡県東部に位置し、霊峰富士の裾野に広がり、東に箱根の山々、西に愛鷹連山と自然豊かな工業のまちです。面積は138.12平方キロメートル、人口は約51,700人で、便利な交通網と気候温暖で水と緑に恵まれた、自然と産業の調和するまちです。


裾野市教育振興基本計画 基本理念

「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」

<裾野市立東小学校>

学校教育目標	自ら学ぶ感性豊かな子							
重点目標	かかわりあう子							
食に関する指導の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食の大切さに気づき、感謝して食べる。 ・自分の健康を考え、何でも食べる。 ・マナーを身につけ、楽しく食べる。 							
設立年月日	明治41年8月31日							
職員数(人)	46							
児童数(人)	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
	625(23学級)	96	99	108	105	112	105	

<裾野市立富岡第一小学校>

学校教育目標	学び合い 高め合い 支え合う 富っ子							
重点目標	声							
食に関する指導の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康を考え、好き嫌いなく食べる。 ・感謝して片付けをきちんとできる。 							
設立年月日	明治8年9月24日							
職員数(人)	44							
児童数(人)	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
	494(20学級)	82	95	73	94	66	84	

平成31年度 食に関する指導の全体計画

裾野市立東小学校

食に関する児童の実態

- ・食への興味や関心がみられる。
- ・残食は少ないが、個人差が大きい。
- ・朝食欠食者は少ないが、栄養バランスのとれた朝食をとっている子どもは少ない。
- ・肥満児童がみられる。
- ・痩身児童が増加している。

◎学校教育目標
 自ら学ぶ感性豊かな子

◎重点目標
 かかわりあう子

◎願う子どもの姿

- ・食の大切さに気づき、感謝して食べる。
- ・自分の健康を考え、何でも食べる。
- ・マナーを身につけ、楽しく食べる。

食に関する指導の目標

- ・食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。(食事の重要性)
- ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。(心身の健康)
- ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。(食品を選択する能力)
- ・食物を大事にし、食物の生産等に関わる人々への感謝する心を育む。(感謝の心)
- ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身につける。(社会性)
- ・各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。(食文化)

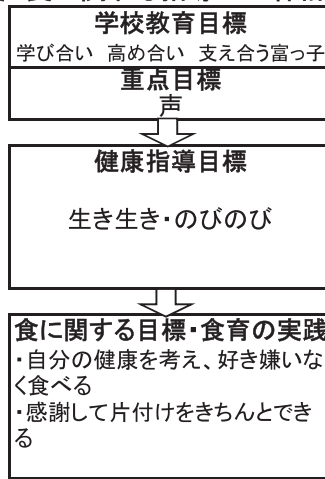
幼稚園・保育園	各学年の発達段階に応じた食に関する指導の到達目標			中学校
	低学年	中学年	高学年	
	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に興味関心をもち、食品の名前がわかるようにする ・みんなと楽しく食べることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を働きによって、3つのグループに分けられることがわかるようにする ・好き嫌いなく食べることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の食事に関心をもち、バランスのとれた食事の大切さがわかるようにする ・食事を通して豊かな心と好ましい人間関係を育てるようにする 	

毎月19日は食育の日		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	学級活動及び給食時間	1学期 給食の約束 食べ物の栄養			2学期 食べ物の栄養 食べ物への関心			3学期 食生活のマナー					
		<ul style="list-style-type: none"> ・上手な配膳をしよう ・上手な後片づけをしよう ・よくかんで食べよう ・食品の3つのグループを知ろう 			<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の栄養を知ろう ・季節の食べ物を知ろう ・食べ物を大切にしよう ・何でも食べよう 			<ul style="list-style-type: none"> ・感謝して食べよう ・食事のマナーを覚えよう ・楽しい雰囲気食べよう 					
		<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士教室訪問 ・地場産物、旬の食材を活用した献立の日常化 ・毎月19～23日「ふるさと給食の日」実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・給食当番の衛生チェック 			<ul style="list-style-type: none"> ・もぐもぐにつき(献立メモ) ・行事食、郷土食、世界の料理を取り入れる 					
		給食行事			ふるさと給食週間							学校給食週間	
	児童会行事	1迎会										6送会	
	学校行事	入学式						運動会	マラソン大会				卒業式

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科との関連	国語	おおきなかぶ⑦ まめ①	食べるのは、どこ⑩		手で食べるはして食べる②	注文の多い料理店⑦	自分の脳は自分で育てる⑥
	社会			わたしたちのまちみんなのまち④～⑦ はたらく人とわたしたちのくらし⑨～⑫	わたしたちの県⑫～⑬	私たちの生活と食料生産⑥～⑩	
	理科			たねをまこう⑤ どれぐらい育ったかな⑥ 実ができたよ⑨	動物のからだのつくりと運動⑤ 暑くなると⑥⑦ すずしくなると⑨⑩	植物の発芽と成長⑤⑥ 魚のたんじょう⑥⑦ 花から実へ⑨	動物のからだのはたらき⑤ 植物のからだのはたらき⑥ 生き物のくらしと環境⑦ 地球に生きる②
	生活家庭		わたしたちのやさしいばたけ⑤～②			はじめてみようクッキング④⑤ 食べて元気に⑪⑫	いためてつくろう朝食のおかず⑤⑥ くふうしようおいしい食事⑪⑫
	体育			毎日の生活と健康②	育ちゆく体とわたし①		
道徳							米百俵⑪
総合的な学習の時間			大好き裾野⑫	静岡茶			
家庭・地域との連携	・地産地消給食 ・献立表	・家庭教育学級(試食会) ・給食だより		・学校保健委員会			
個別の相談指導	・学校生活管理指導表に基づくアレルギー相談(養護教諭との連携)						

食に関する児童の実態

- ・食への興味や関心がみられる。
- ・給食が好きな子が多く、残食も少ない。
- ・進んで体を動かすなど運動が好きな児童が多い。
- ・朝食はほぼ全員食べているが内容については不明。
- ・生活時間の夜型傾向が高学年にみられる。
- ・身長・体重とも、特に高学年女子が大きく伸びている。



食に関する指導の目標

生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、児童一人一人が望ましい食生活の基礎・基本と食習慣を身につけ、食事を通じて自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じて、豊かな心を育成し、社会性を養う。

各教科や特別活動を通じて、栄養や食事マナー、望ましい食習慣、日本の食文化など「食」に関する理解を高めると共に、心身ともに健康な食生活への実践的な態度を育てる。

<からだの健康>
食べ物の働きや栄養についての理解を深める。

<心の育成>
楽しい食事を通して、望ましい人間関係や豊かな心を育てる。

<社会性の涵養>
準備・会食・片付けなどを通じて協調性や社会性を養う。

<自己管理能力の育成>
児童が自分の健康を守るために、望ましい食習慣を実行しようとする態度を養う力

「食に関する指導の手引き」文部科学省より抜粋

各学年の発達段階に応じた食に関する指導の到達目標				
幼稚園・保育園	低学年	中学年	高学年	中学校
	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に興味関心を持ち、食品の名前がわかるようにする ・みんなと楽しく食べることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物を働きによって、3つのグループに分けられることがわかるようにする ・好き嫌いをなく食べることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の食事に関心を持ち、バランスのとれた食事の大切さがわかるようにする ・食事を通して豊かな心と好ましい人間関係を育てるようにする 	




毎月19日は食育の日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1学期			2学期				3学期				
特別活動	学級活動及び給食時間		社会性の涵養 給食の約束	体の健康 食べ物の栄養	自己管理能力の育成		心の育成	心の育成				
			・上手な配膳をしよう	・よくかんで食べよう	食べ物への関心		食べ物や生産者への感謝	食生活のマナー				
			・上手な後片づけをしよう	・食品の3つのグループを知ろう	食べ物への栄養を知ろう		・地元の食材に親しもう	・感謝して食べよう ・食事のマナーを覚えよう ・楽しい雰囲気ですべよう				
			・栄養士教室訪問	・給食当番の衛生チェック	季節の食べ物を知ろう		・食べ物大切にしよう	・何でも食べよう				
給食行事			ふるさと給食週間							学校給食週間		
児童会行事	1年迎会							富っ子のつどい			6年送会	
学校行事	入学式	運動会						マラソン大会				卒業式

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
教科との関連	国語	おおきなかぶ⑦ まめ①		手で食べるはして食べる②	注文の多い料理店⑦	自分の脳を自分で育てる⑤	
	社会		わたしたちのまちみんなのまち⑥ 店ではたらく人⑩ 農家のしごと⑪	わたしたちの県⑫①	私たちの生活と食料生産⑥～⑨		
	理科		植物をそだてよう④～⑨			動物のからだのはたらき⑤ 水溶液の性質⑪	
	生活家庭	がっこうたんけん④	わたしたちのやさしいばたけ⑤～⑪			はじめてみようクッキング④④ 食べて元気に⑪⑫	くふうしよう楽しい食事⑪⑫(バランスのよいこんだてを考えよう)
	体育			毎日の生活と健康②	育ちゆく体と私②		病気の予防⑥②
道徳	おいしいおちゃ⑥		せい茶を日本一に⑩		ひとつぶのごはんにも⑩	茶の種をまいた人①	
総合的な学習の時間	・米作り						
家庭・地域との連携	・地産地消給食 ・献立表 ・給食だより ・試食会 ・学校保健委員会						
個別的な相談指導	・学校生活管理指導表に基づくアレルギー相談(養護教諭との連携) ・生活習慣病検診結果をもとにした事後指導						

2 モデル校における取組

【裾野市立東小学校】

時期	対象	時間	内容	栄養教諭の関わり
通年	全校	給食の時間	静岡茶が身近なものになることを目的に、静岡茶を使った献立を提供し、献立表及び給食だより等で紹介する。 (5月から2月)	有
通年	全校	給食の時間	静岡茶について理解を深めるために、給食放送でお茶の話をしたり、給食時間に栄養教諭がお茶についての指導をしたりする。	有
6月	保護者	家庭教育学級	製茶店主を講師として招き、お茶の歴史や種類、おいしく飲む淹れ方等のレクチャーを受け、実際に淹れ方の体験も行う。	有
7月	4年生	総合的な学習の時間	おいしいお茶の淹れ方について、栄養教諭や保護者と一緒に実習して味わう。	有
9月	5年生	家庭科	お湯の沸かし方を学習した子どもたちが、そのお湯を使っておいしいお茶の淹れ方について実習する。	有
9月	保護者	家庭教育学級	お茶の飲み比べ、冷茶の淹れ方実習、いろいろなお茶の試飲、お茶のシューズキーパー作りについて、お茶生産者に指導していただく。	有
10月	4年生	総合的な学習の時間	1学期に学習したお茶の葉がどのように成長してどのように収穫されるかを茶摘み体験を通して確かめる。	有
11月	保護者	家庭教育学級	製茶店主を講師として招き、お茶飯、お茶の佃煮、お茶のふりかけ作りについて、指導していただく。	有
11月	4年生	総合的な学習の時間	手もみ保存会の方に、お茶の手もみ体験をしていただき、収穫したお茶の葉がどのように加工されていくのかを知る。	有
12月	5年生	家庭科	食べ物の栄養について学習し、朝ごはんも栄養バランスが大切なことを知る。静岡県教育委員会作成のリーフレットを活用する。	有
12月	5年生	家庭科	ごはんを炊く調理実習の中で、保護者がお茶のふりかけや茶飯を作り、自分たちが炊いたごはんと一緒に味わう。	有
12月	4年生 5年生	総合的な学習の時間	茶道体験。日本の文化である茶道を体験することにより、作法の意味を知り、どうしてこのような文化が広まったのかを考えたりする。	有
12月	6年生	総合的な学習の時間	日本茶インストラクターの方に、指導していただく。キャリア教育の一環として、仕事についてもお話いただく。	無
12月	5年生	家庭科	朝食啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか。」(県教委発行)を活用し、朝食指導を行う。	有
冬季	全校	—	粉末のスティック茶を配布し、家庭で水筒に入れて持参する。学校で、飲んだりうがいしたりする。	有

活動名	第1回 お茶講座		
実施期間	6月12日（水）	実施場所	家庭科室
対象	保護者、家庭教育学級生	指導者	地域の製茶店店主
栄養教諭の関わり	有	時間	家庭教育学級
ねらい			
お茶の基礎知識や、家庭でも簡単にできるおいしいお茶の淹れ方を知る。			
家庭・地域との連携のための手立て			
学んだことを家庭でも実践する。学校ホームページで紹介する。 4年生がお茶の淹れ方を学習する際に参加し、支援する。			
内容			
<ol style="list-style-type: none"> ① お茶の基礎知識の講話。 ② お茶の淹れ方についての説明。 ③ 実習（深蒸し茶、浅蒸し茶、冷茶を淹れて味わう）。 ④ 片付け。 			
  			
対象者の感想			
<ul style="list-style-type: none"> ・急須の使い方も淹れ方も間違っていました。急須を変えるだけでいつものお茶もおいしくいただけました。 ・おいしいお茶をととても簡単に淹れることが出来たので、お茶の静岡で育っている子どもにも教えていきたい。 ・今まで、お茶は食事の時の飲み物という捉えでしたが、おいしいお茶は純粹に食事のひとつみたいに楽しめるということ、また、おいしいお茶は色も楽しめてとても癒されるなど改めて思いました。 ・静岡人として、親から子へ、教えていくのが大切だなと思いました。 			
成果○と課題●			
○急須で簡単にお茶を淹れることができたので、家でも子どもたちと一緒に飲んでみようという気持ちもてた。			

活動名	おいしいお茶のいれ方教室		
実施期間	7月16日（火）から19日（金）	実施場所	家庭科室
対象	4年生児童	指導者	担任、栄養教諭、保護者
栄養教諭の関わり	有	時間	総合的な学習の時間

ねらい

簡単においしくお茶を淹れる方法を知り、お茶のおいしさを味わう。
家庭で実践する。

家庭・地域との連携のための手立て

6月にお茶講座を受けた保護者が一緒に参加し、実習の支援をする。
家庭でもおいしいお茶を淹れて、家族で楽しむ。
学校ホームページで紹介する。

内容

① おいしいお茶の淹れ方について説明する。（栄養教諭、保護者）

おいしくなるように
おまじないをしよう！



② 班ごとに実習する。
浅蒸し茶、深蒸し茶、くき茶を淹れて、色や味、かおりの違いを感じる。
お茶菓子とともに、お茶を味わう。

かおりがいいね！
色もきれいだよ！



お菓子と一緒に
飲むとおいしいね！



③ 片付け、振り返り。

対象者の感想

- ・お茶は淹れ方によって違うのだとわかりました。自分で淹れて自分で飲む、とてもいい経験だと思います。家でもお茶を淹れて家族でも飲みたいです。
- ・お茶の正しい淹れ方は知らなかった。家にも急須があるからやってみよう。
- ・茶葉が、浅蒸しも深蒸しも同じような色でした。けどお茶を淹れてみると色が全然違ったのでびっくりしました。

成果○と課題●

- お茶の味を味わうことができた。
- 保護者が支援に入ってくれたので、安全に実習することが出来た。
- 茶器のレンタルは、日程調整、配送、片付け、梱包などの手間がかかり、調整が必要。

活動名	おいしいお茶をいれよう		
実施期間	9月3日（火）から12日（木）	実施場所	家庭科室
対象	5年生児童	指導者	担任、栄養教諭
栄養教諭の関わり	有	時間	家庭科

ねらい

お湯の沸かし方を学習した子どもたちが、自分で沸かしたお湯でお茶を淹れる活動を通して、おいしいお茶を淹れるポイントを知る。

家庭・地域との連携のための手立て

家庭でもお湯を沸かしてお茶を淹れる実践をする。

内容

- ① 身支度、準備、お湯を沸かす。
- ② 栄養教諭がおいしいお茶の淹れ方について説明。
- ③ 班ごとに実習
一煎目、二煎目の違い、
色やかおり、味の違いを感じる。



湯冷ましてから
急須に入れます。

みんな同じ濃さ、味に
なるように廻し注ぎ！



おいしいお茶が
飲めたよ！

対象者の感想

- ・思っていたより、苦みがなかったり、色が薄かったり、1回目と2回目で味が濃くなったり、いろいろな違いがあってびっくりしました。
- ・お茶の葉で、急須でまた飲みたい。家でもやってみたい。
- ・お茶の淹れ方がわかったから、家でもやってみたい。
- ・淹れ方によって味や色などが変わることがわかりました。

成果○と課題●

- 自分で、家でもやってみようという気持ちもてた。
- 地域のおいしいお茶を味わうことができた。
- 家庭科室の茶器では、不足しているものがあるので、道具が揃うとよい。
- 9月の暑い時期だったので、お湯がなかなか冷めなかった。

活動名	第2回 お茶講座		
実施期間	9月24日（火）	実施場所	家庭科室
対象	家庭教育学級生	指導者	お茶生産者
栄養教諭の関わり	有	時間	家庭教育学級

ねらい

いろいろなお茶の楽しみ方を知る。古くなった茶葉の活用法（シューズキーパー作り）を知る。

家庭・地域との連携のための手立て

家庭でもお茶を楽しむ時間をもつ。
学校ホームページで紹介する。

内容

- ① 自己紹介、ウェルカムティー（ミントティー）。
- ② CHA-SARA（茶皿）でお茶のフルコース（最後に茶殻を食べる）。
- ③ 発酵別4種のお茶の飲み比べ。
- ④ お茶のシューズキーパー作り。
- ⑤ 冷茶の淹れ方実習。
- ⑥ 質問、片付け。

古くなった茶葉を炒って、シューズキーパーにします。靴下やリボンなどを使って簡単にできます。



対象者の感想

- ・CHA-SARA（茶皿）で味わったお茶のうま味にびっくりした。
- ・シューズキーパーは簡単に作れるので、古くなったお茶があったら捨てずに利用したい。
- ・子ども自身が興味をもって自分でお茶を淹れるようになってくれるようなきっかけづくりをしてほしいです。

成果○と課題●

- お茶本来のうま味を感じることができた。
- 冷茶の淹れ方も教えていただいたので、暑い季節でもお茶を楽しむ方法がわかった。
- 古くなったお茶の葉も活用できることがわかった。
- 講師の日程、予算等の調整が必要。

活動名	茶摘み体験		
実施期間	10月15日(火)	実施場所	茶摘み体験施設
対象	4年生児童	指導者	茶摘み体験施設職員
栄養教諭の関わり	有	時間	総合的な学習の時間

ねらい

1学期に学習した「おいしいお茶の淹れ方」で使ったお茶の葉が、どのように成長して収穫されるかをお茶摘み体験を通して確かめる。

家庭・地域との連携のための手立て

摘んだ茶葉を持ち帰り、家庭で天ぷらなどにして味わう。学校ホームページで紹介する。家庭教育学級の保護者が一緒に参加する。

内容

- ① お茶摘みの衣装に着替え。
- ② 茶摘み体験。
- ③ 冷茶の試飲。
- ④ 振り返り。



一芯二葉をとります！



これがお茶の葉なんだね！
たくさんとれたよ！

対象者の感想

(児童)

- ・いろいろな色の葉があった。
- ・やる前は難しいのかな、私にできるのかなと思ったけど、やってみるととても簡単で、夢中になってたくさん摘んでしまいました。
- ・そんなにとれないと思ったけど、2袋分もとれてうれしかった。
- ・いつも大変なお仕事をしていることがわかりました。
- ・服装がとてもすてきだった。楽しかった。

(保護者)

- ・茶摘み娘の衣装を着たり、貴重な体験でした。
- ・子どもたちが一生懸命摘んでいる姿がとてもすてきでした。
- ・茶葉が想像していたより柔らかかったです。一芯二葉、初めて聞き勉強になりました。
- ・今回は楽しく茶摘みをさせていただきましたが、がんばって摘んでもなかなか量がとれなかったの、仕事としてやるにはとても大変な作業だと思いました。お茶の芽はやわらかくて、天ぷらにしてもおいしかったです。

成果○と課題●

- 茶畑は見たことがあるが、茶摘みはなかなか経験できないので、貴重な体験となった。
- 持ち帰ったお茶の葉を天ぷらにして味わった子が多かった。
- 体験できる場所が近くにあるとよい。

活動名	第3回 お茶講座		
実施期間	11月5日(火)	実施場所	家庭科室
対象	家庭教育学級生	指導者	地域の製茶店店主
栄養教諭の関わり	有	時間	家庭教育学級

ねらい

いつもは捨ててしまう茶殻の有効活用方法を知る。茶殻にも栄養が残っているので、お茶を丸ごと楽しむ。

家庭・地域との連携のための手立て

家庭でも実践する。
学校ホームページで紹介する。
参加した家庭教育学級生が、5年生の家庭科の支援に入る。

内容

- ① 自己紹介。
- ② 茶飯、お茶の佃煮、お茶のふりかけ作りの実習。
- ③ 試食。
- ④ 質問、片付け。



茶殻にも栄養がたくさん含まれています。ぜひ捨てないで活用してください。

対象者の感想

- ・佃煮もふりかけもごはんにあう味だったので、家でも作ってみたい。
- ・茶飯も、お茶のかおりがしておいしかった。
- ・初体験でしたが、とても勉強になりました。
- ・佃煮はほんのり苦くて大人の味。ふりかけは子どもに人気でした。今まで捨てていましたが、家庭でも活用していきたいです。
- ・今まで捨てていた茶葉がふりかけや佃煮になるとは、新発見でした。ふりかけは子どももおいしく食べられました。
- ・捨てていた茶葉を佃煮やふりかけにして食べるのは初めてでしたが、思ったよりごはんにも合うと子どもに好評だったので、味を変えて作ってみて、自分好みの味を探してみようかなと思いました。
- ・いつも捨ててしまっていた茶葉には、たくさんの栄養が含まれているというお話を聞いて、今までとてももったいないことをしていたと思いました。飲んだり食べたり、消臭剤にも使えるとのこと、あらためてお茶は捨てる場所がない、すごい食材だと思いました。
- ・いつも捨ててしまっていた茶葉には、たくさんの栄養があることがわかり、佃煮やふりかけの作り方も教えていただけて、とても勉強になりました。とてもおいしかったので、作ったふりかけを今日の子どものお弁当に入れてあげました。また家でも娘と一緒に作ってみたいです。
- ・捨ててしまうお茶の葉で佃煮やふりかけに変身できて素晴らしいと思いました。ふりかけは大好評で家でもやりたいと思います。

成果○と課題●

- お茶は飲むだけでなく、丸ごと楽しむ方法がわかった。
- 家庭科の授業に入ることで、学んだことが実践に繋がった。

活動名	手もみ茶体験		
実施期間	11月6日(水)	実施場所	体育館前
対象	4年生児童、家庭教育学級生	指導者	裾野市手もみ保存会
栄養教諭の関わり	有	時間	総合的な学習の時間

ねらい

収穫した茶葉がどのように加工されてお茶になるのかを体験する。

家庭・地域との連携のための手立て

自分たちで手もみしたお茶の葉を持ち帰り、家で味わう。学校ホームページで紹介する。家庭教育学級の保護者が一緒に参加する。

内容

- ① 対面式。
- ② 葉振り。
- ③ 回転揉み。
- ④ 揉切り、でんぐり、こくり。
- ⑤ 乾燥、袋詰め。
- ⑥ 終わりの会、振り返り。



けっこう手間がかかるんだね。どんどん葉の様子が変わっていくね。



最後に自分たちで手もみしたお茶をお土産にいただきました！



お母さんたちも挑戦！

対象者の感想

(児童)

- ・貴重な体験をして、とても楽しかったです。とても丁寧にやり方を教えていただきました。
- ・できあがったのは、初めのものと全然違いました。とてもびっくりしました。
- ・出来上がったお茶をひとついただいて食べたとき、少し苦かったです。
- ・最後にお茶の葉をもらい、自分が揉んだお茶を早く飲みたいと思いました。

(保護者)

- ・お茶になるまでにいろいろな手もみの工程があるのを知ることができました。また、茶葉が変わっていく様子も目と鼻と手で実感し、体験させていただきました。
- ・お茶を飲めるようになるまで、人の手がすごく入っているのを知りました。感謝して飲みます。
- ・手もみ茶を作るには、こんなにも手間がかかっていることを知ることが出来ました。娘が持ち帰ってきたお茶を感謝して飲みました。とてもおいしかったです。

成果○と課題●

- 保存会のプロの技を見て、近くでやり方を教えていただき、貴重な体験ができた。
- お茶の葉が出来るまでには、こんなに大変な作業があることがわかった。
- 自分で手もみしたお茶を味わうことにより、家庭でもお茶について知る機会になった。
- クラスごと順番に体験をしたので、会場及び日程の調整が必要。

活動名	ごはんのみそ汁を作ろう（調理実習）		
実施期間	12月12日（木）から19日（木）	実施場所	家庭科室
対象	5年生児童	指導者	担任、栄養教諭、保護者
栄養教諭の関わり	有	時間	家庭科

ねらい

調理実習でごはんのみそ汁を作った子どもたちが、試食の時に保護者が作ったお茶のふりかけと茶飯と一緒に味わう。

家庭・地域との連携のための手立て

家庭教育学級の保護者が、お茶講座で学んだお茶ふりかけと茶飯を作り、調理実習でごはんを炊いた子どもたちに紹介する。学校ホームページで紹介する。

内容

①身支度、準備。

②調理実習（ごはんのみそ汁）

実習の合間に、保護者からお茶ふりかけと茶飯について説明をする。子どもたちが実習している間にお茶ふりかけと茶飯を作る。

③試食

実習で作ったごはんのみそ汁と一緒に、保護者が作ったお茶ふりかけと茶飯を味わう。

④片付け、ふりかえり



自分で炊いたし、ふりかけもおいしくて大満足！

子どもたちのためにがんばります！



対象者の感想

- ・ふりかけは、お茶の味がしておいしかった。茶飯もおいしかった。
- ・ごはんにもふりかけがよくあっておいしかった。
- ・おみそするもごはんもすごくおいしかったです。お母さんたちが作ってくれたふりかけと茶飯がおいしかったです。家で作ってみたいです。
- ・ふりかけを作っていたいたので、ごはんをおいしくいただけました。

成果○と課題●

- お茶は飲むだけでなく食べる活用法について教えていただけでよかった。
- 保護者が支援に入ることによって家庭との連携につながった。
- お茶ふりかけと茶飯のレシピを配布したので、他の家庭にも広げることができた。

活動名	茶道教室		
実施期間	12月13日（金）・・・5年生 12月20日（金）・・・4年生	実施場所	多目的室・和室
対象	4・5年生児童	指導者	茶道講師
栄養教諭の関わり	有	時間	総合的な学習の時間

ねらい

日本の文化である茶道を体験することにより、作法の意味を知り、どうしてこのような文化が広まったのか考える。

家庭・地域との連携のための手立て

学校ホームページで紹介する。
地域の団体が茶道講師として参加。

内容

- ①床の間の軸や花の意味について説明。
- ②講師による作法（美しいお辞儀の仕方など）。
- ③デモンストレーション。
- ④抹茶体験



おじぎの仕方などの作法についても教えていただきました。

ちょっと緊張したけど、上手にできました。



対象者の感想

- ・作法がたくさんあって驚きました。たたみのへりを踏まないことや、たたみは右足から4歩で歩くなど、いろいろな作法があったので少しずつ覚えていきたいです。
- ・普通の緑茶より色も味も濃くて、ふだんあまり飲まないの不思議な感覚でした。また飲んでみたいと思いました。
- ・抹茶を飲むときに最後に音を立てて飲むことに驚きました。
- ・この体験で私は日本の文化に興味を持つことができました。
- ・抹茶の粉を臼でひいて作っているのを初めて知りました。
- ・今までのお茶とは全く違う作り方でした。味も違うおいしさがありました。
- ・礼儀にびっくりしました。いつもは普通に湯のみやコップに入れて飲むのに、いろいろな礼儀があつてむかしから受け継がれているのだと感じました。

成果○と課題●

- ただ抹茶をのむだけでなく、作法などについても教えていただけてよい体験となった。
- 貴重な体験なので継続して実施したいが、そのためには調整が必要。（講師調整、予算等）

活動名	静岡茶講座		
実施期間	12月19日（木）	実施場所	家庭科室
対象	6年生児童	指導者	日本茶インストラクター
栄養教諭の関わり	無	時間	総合的な学習の時間

ねらい

静岡茶について学ぶことで、静岡茶の愛飲を進め、児童の健康の維持・増進、郷土への理解が深まる。お茶に関わる仕事について学ぶ。

家庭・地域との連携のための手立て

学校ホームページで紹介する。
学んだことを家庭でも実践する。

内容

- ①身支度。
- ②静岡茶の概要、お茶の種類、淹れ方のデモンストレーション。
- ③グループに分かれて、淹れ方の実践。
- ④質問タイム、いろいろなお茶の葉を観察。
- ⑤お茶の仕事について講話。



お茶屋さんの仕事について教えていただきました。



対象者の感想

- ・お茶にはどんな種類があるのか、お茶の淹れ方がわかりました。家族にお茶を淹れてあげたいと思いました。お茶は、からだにいいことがわかったので、毎日お茶を飲みたいです。
- ・3回目のお茶は苦かったので、私は2回目が好きでした。お茶は何回淹れても同じような味だと思っていたので驚きました。他のお茶も飲んでみたいと思いました。
- ・お茶は、お湯の温度で苦さが違うなんて初めて知りました。
- ・知らない人ばかりのところに来てお茶に専念するのがすごいと思いました。
- ・お茶の淹れ方やインストラクターの仕事についてたくさんのお話を教えていただきありがとうございました。
- ・お茶のことを知れたし、前よりも興味がわきました。

成果〇と課題●

- 〇お茶を淹れる体験活動があったので、お茶を楽しく学び、理解が深まった。
- 〇インストラクターが各班について実践の指導してくれたので、お茶の淹れ方が身に付いた。